

2012年は 共創型生活者の時代へ。

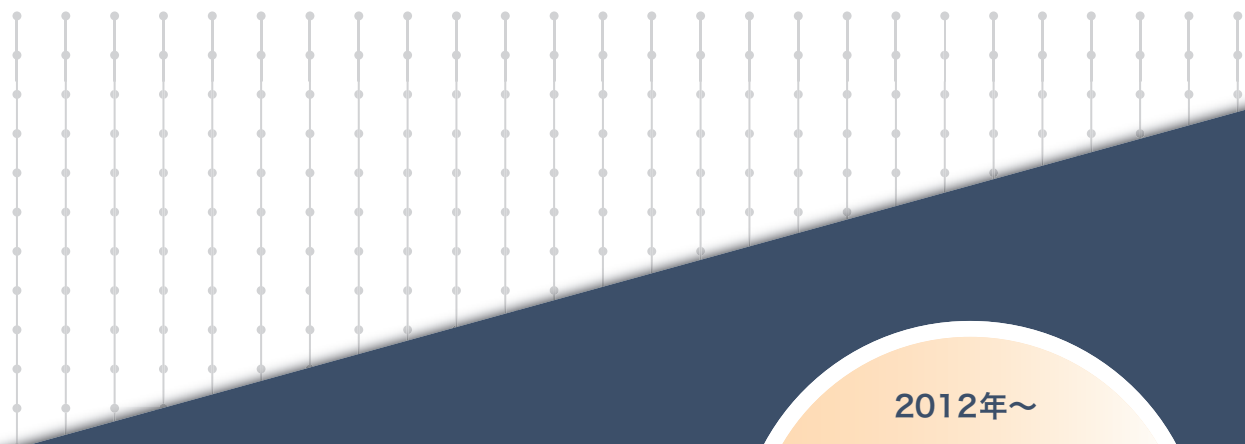
電通総研では、毎年年末に社会や消費を予測するキーワードを発表しております。

2012年は、生活者の中で、企業や社会と共に「価値・基準・ライフスタイル」の新しいあり方を探そうとする動きが一層強まると分析しており、そのような生活者を“共創型生活者”と命名しました。

長らく生活者は、目の前に提示された商品・情報の選択肢から選ぶだけでしたが、2000年代のインターネットの高度化や昨今のソーシャルメディアの普及により、自ら情報を発信する術を手に入れました。それと同時に企業も、生活者が発信する情報を真摯に受け止める重要性を認識するようになってきました。

そのような潮流の中、2011年3月11日に東日本大震災が発生。これを契機に、生活者はこれまで当然のように信じていたことへの不安を感じたとともに、自らが進んで「日本の未来像」に関与していこうという当事者意識を強めています。新しい生活スタイルや社会システムを、「志の高い」「顔の見える」企業などと手を取り合って生み出そうという機運が高まっているのではないのでしょうか。

2012年の企業は、売上や利益を重視する既成の枠組みを超えた新しい価値を、“共創型生活者”との連携によって生み出していくことが求められていくでしょう。



2000年頃より前

【受動型生活者】

目の前に提示された選択肢の中から選ぶだけの受身の生活者

企業 → 生活者の一方通行

Web2.0

自ら情報発信し、気軽につながり参加する術を手に入れる。

東日本大震災

自ら進んで「日本の未来像」に関与していこうとする当事者意識の強まり。

2012年～

【共創型生活者】

企業や社会と共に「価値・基準・ライフスタイル」のニューノーマルを創るうとする主体性の高い生活者

企業 ↔ 生活者(同士)の共創

生活者が選ぶ2011年の話題注目商品

共創

Ranking

以下のランキングは、約130の候補商品・サービスに関してアンケート調査から求めた「認知度」・「関心度」・「話題度」を合計したものです。大きく普及が進んだ「スマートフォン」が、昨年に引き続き1位に輝きました。ランキング上位の特徴として、スマートフォン・タブレット端末・ソーシャルメディアなどの「新しい情報ツール」、震災を背景に需要が高まった節電関連商品やエコカーなどの「省エネや環境にやさしい商品」、東京スカイツリー・なでしこジャパン・AKB48などの「日本人を元気にした現象や人々」が目立ったことを指摘できそうです。

生活者が選ぶ2011年の話題注目商品ベスト20

()内は昨年順位。(-)は未調査

1位 スマートフォン (1)	6位 芦田愛菜 (-)
2位 LED電球 (10)	7位 ハイブリッドカー (16)
3位 東京スカイツリー (7)	8位 防災グッズ・備蓄食 (-)
4位 なでしこジャパン (-)	9位 扇風機 (-)
5位 AKB48 (18)	10位 地デジ対応大画面薄型テレビ (4)
11位 食べるラー油 (3)	16位 ご当地B級グルメ (11)
12位 節電家電 (-)	17位 スティーブ・ジョブズ (-)
13位 レディー・ガガ (-)	18位 twitterなどのミニブログ (2)
14位 ホームベーカリー (-)	19位 電気自動車 (30)
15位 タブレット型情報端末 (19)	20位 K-POP (少女時代、KARAなど) (62)

【話題注目商品2011調査の概要】

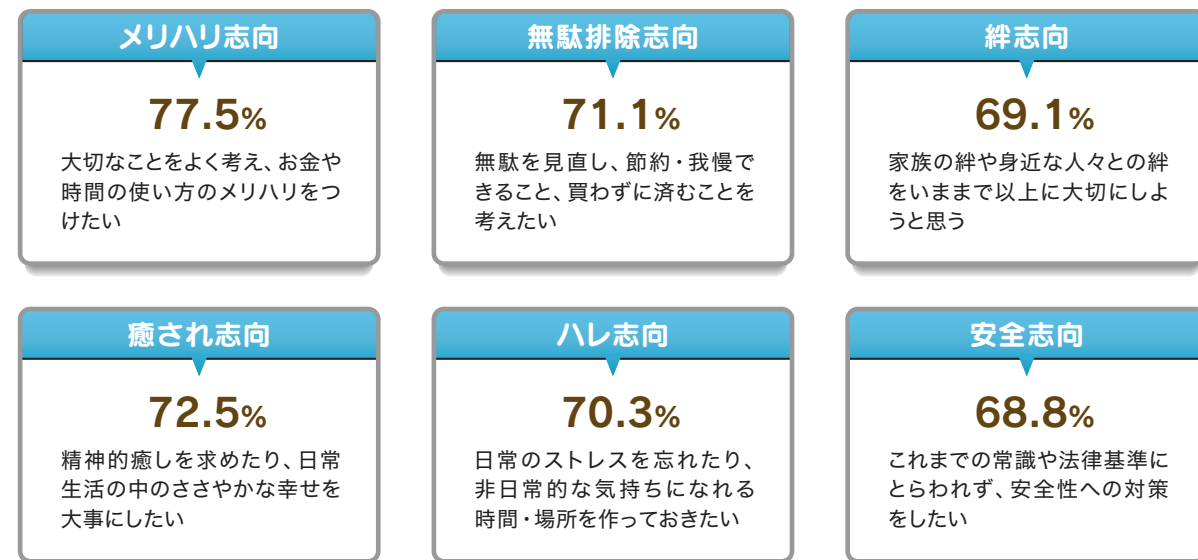
・調査対象：全国、20～69歳男女個人、1000名
・調査手法：インターネット調査
・調査時期：平成23年11月5日(土)～11月6日(日)
・調査会社：電通マーケティングインサイト

東日本大震災を経た 日本人の価値観メガトレンド

共創

Megatrends

電通総研では、「東日本大震災の影響を受け、今後強まっていくであろう意識」について、4月、6月、9月、12月と定期的に調査を実施してまいりました。このたびは、その中で、12月現在なお55%以上の人に支持され、日本人に根差したと思われる15の意識をご紹介します。



“共創型生活者”への5つのアプローチ

共創

Approach

共創型生活者は、商品・サービスへのカスタマイズや社会参加などの能動的関与を通じて、「こだわりの対象」の価値を自律的に高めていく消費スタイルを好む傾向があるようです。

2011年のヒット商品事例を基に、“共創型生活者”へのアプローチとして、5つのポイントを整理しました。

1 ヒト手間カスタマイズ

パッケージ化されていて工夫の余地がない商品・サービスではなく、ひと手間を加えて、「自分にピッタリ」の使い方や楽しみ方ができる商品・サービス。

【2011年話題注目商品】

スマートフォン、AKB48、タブレット型情報端末、食べるラー油、ホームベーカリー、FacebookなどのSNS、Twitterなどのミニブログ 他

2 ソーシャルリンケージ

自分が他人や社会とつながり、課題解決のために貢献できていることを実感できる商品・サービス。

【2011年話題注目商品】

LED電球、扇風機、クールビズ・ファッション、水筒・魔法ビン(マイボトル) 他

3 ゲーミフィケーション

他ユーザーと競い合うなどのゲーム性を取り入れること(=ゲーミフィケーション)で、プロセスを楽しめる商品・サービス。

【2011年話題注目商品】

エコカー&エコドライブランキング、ソーシャルゲーム、位置情報SNS 他

4 小ハレ探し

節約を意識する日常の中でも、ちょっとしたハレの気分・時間を作ったり感じたりできる商品・サービス。

【2011年話題注目商品】

東京スカイツリー&下町見学、ホームベーカリー、ピアガーデン、なでしこジャパン 他

5 セルフプロデュース

「他人から見られる自分像」を、能動的かつ自律的にプロデュースできる商品・サービス。

【2011年話題注目商品】

FacebookなどのSNS、Twitterなどのミニブログ、デザイン家電、おネエ系タレント 他



2012 EVENT CALENDAR

共創

Event

2012年の主なイベント・出来事をまとめました。「2012年をどう充実させるか」、「どうチャンスを作っていくか」などのヒントになれば幸いです。尚、国論を二分するTPP交渉の今後の見通しは、報道等によれば、夏ごろに日本の参加が同意され、年内中の妥結の可能性があるとされています。

<p>1 首都高速道路、阪神高速道路が 距離別料金制度を導入 1日</p> <p>オーストリア・インスブルックで 第1回ユース五輪冬季大会開催 13~22日</p> <p>台湾総統選挙 14日</p>	<p>6 エリザベス女王の即位60周年記念式典 「ダイヤモンド・ジュビリー」 2~5日</p> <p>リオデジャネイロで 「国連持続可能な開発会議」(リオ+20) 開催 4~6日</p> <p>宇宙飛行士の星出彰彦氏、国際宇宙ステーション(ISS)に 滞在開始(約6カ月間) 6月中</p>
<p>2 復興庁を設置 2月中</p> <p>総務省、900MHz帯(プラチナバンド)を 割り当てる携帯電話事業者を決定 2月下旬</p>	<p>7 再生可能エネルギーの固定価格買取制度がスタート 1日</p> <p>島根県が古事記編纂1300年を記念して 「神話博しまね」を開催(~11月11日) 21日</p> <p>ロンドン五輪開幕(~8月22日) 27日</p> <p>政府、「医療・介護」や「情報通信」などで専門性を持つ 外国人(高度人材)受け入れ拡大策を実施 7月目標</p>
<p>3 ロシア大統領選挙 4日</p> <p>東日本大震災から1年 11日</p> <p>第1回京都マラソン開催 11日</p> <p>米大リーグ開幕戦 マリナーズ対アスレチックスを東京ドームで開催 28日</p> <p>岩手、宮城、福島、地上デジタル放送へ完全移行 31日</p>	<p>8 ロンドンパラリンピック開幕(~9月9日) 29日</p>
<p>4 フランス大統領選第1回投票(決選投票5月6日) 22日</p> <p>原子力安全庁(仮称)を設置 4月中</p>	<p>9 民主党代表選 9月中</p> <p>自民党総裁選 9月中</p> <p>ロシア・ウラジオストクで APEC(アジア太平洋経済協力会議)開催 9月中</p>
<p>5 ^{ヨス}韓国で麗水国際博覧会開催(~8月12日) 12日</p> <p>金環日食 (太平洋側を中心とした広いエリアで観測可能) 21日</p> <p>東京スカイツリーが開業 22日</p> <p>アメリカ・シカゴでG8首脳会議開催 5月中</p>	<p>10 東京で、IMF(国際通貨基金)と 世界銀行グループの年次総会開催 10月中</p> <p>11 アメリカ大統領本選挙 6日</p> <p>12 韓国大統領選挙 12月中</p>

○新東名高速道路の部分開通(御殿場~三カ日) **初夏**

○所得制限を設けた子どもに対する手当を開始 **2012年度目標**

2012年への展望

共創

Prospect

現在の消費マインドは、震災ショックによる冷え込みの後、若干回復したものの横ばい傾向が続いております(電通総研 消費気分調査より)。2012年は、予断を許さない欧州債務問題、依然として続く円高など、外部環境における不安要素はあるものの、国内では復興需要の本格化による景気拡大が期待されます。同時に、春先以降から「2年ぶりに楽しむ花見・花火大会」、「東京スカイツリー開業」、「ロンドン五輪開幕」など、生活者にとって明るい話題が増えることから、未来への自信を取り戻していく気運が加速しそうです。企業は、そのような生活者とともに「生活の新しい楽しみ方やライフスタイル」を「共創」していくことが求められるでしょう。

■お問合せ先

株式会社 電通 電通総研

ヒューマン・インサイト部 四元・東田・穴沢 Tel. 03-6216-8458 広報部 河南・小林・林田 Tel. 03-6216-8041